



宮崎 眞樹子  
Miyazaki Makiko

〔甲佐食堂「おかえり」〕

みやざき まきこ / 甲佐食堂「おかえり」の代表。月1回、子育て支援住宅「ヴェルデ甲佐」で弁当を配布。詳細は、Instagram @ okaeri\_kosa で。

## 温かい食事がつなぐ 子どもたちと地域の絆

「家族ではなくても、おかえり」と声を掛け合えるような、温かい場所のひとつになれば」と話すのは子ども食堂「甲佐食堂『おかえり』」で代表を務める宮崎眞樹子さん（写真・前列右から二人目）。

宮崎さんは、地域の多世代交流を目的に、令和元年12月から月1回、子育て支援住宅「ヴェルデ甲佐」1階集会所で同食堂を実施している。フードバンク熊本や地域住民などから寄付された食材で地

域ボランティア約20人が弁当を手作りし、配布。子どもは無料、高校生以上は300円で利用できる。また、令和3年7月からはひとり親家庭に食料品などの支援も行う。特別養護老人ホーム「桜の丘」の施設長でもある代表の宮崎さんは、熊本地震の翌年の3月から2年間、白旗仮設団地で被災者支援のための食堂を毎週開設する中で、人の

輪を作り、元気にする「食の力」を実感した。

本町でも年々、ひとり親家庭や高齢者のひとり暮らしへの支援が求められる中、子どもや高齢者の孤食を気にかけていたという宮崎さんは「白旗仮設団地での経験も活かし、子どもたちや高齢者の皆さんが楽しく会話しながら食事できる、そんな場所が作れたら」と子ども食堂の開設のきっかけを話す。

当初はビュッフェ形式で実施していたが、コロナ禍になり中止が続いた。参加者の再開して欲しいという声もあり、感染症対策の下、弁当配布で再開。「参加した皆さんが笑顔で帰っていく姿、子どもたちの成長を見られるのは一番の喜びですね」と微笑む。

「何か思い悩んだりしたときは、地域のつながりが大きな助けになると思います。この子ども食堂をきっかけに、訪れた人同士が普段から声をかけ合えるような関係になって欲しいです」と話す宮崎さんは、子ども食堂を通じて地域の人々をつなぐ。

## 広報 こうさ

2023年（令和5年）2月号  
通巻643号